

## ■ 農業に本気で向き合う20代、農業は自分の介在価値を確認できる仕事

私は農業キャリアコンサルタントとして農業人材の確保にも携わっていますが、最近では以前に増して仕事として農業に向き合う若者が増えているように思います。農業求人サイトが行う新卒向けのイベントでも参加する学生が増え、仕事として本気で農業と向き合う若者が増えていると感じます。有機栽培や露地野菜の栽培についてセミナーを開くと、若い人の参加が多くすぐに満席になるほどです。若い世代に農業が注目される理由の一つが、農業が自分の介在価値を確認できる仕事ということがあると思います。どんな仕事も自分が関わった仕事を褒められるとすごくうれしいと思うのですが、農業は作った野菜を「おいしい」と言ってもらえるなど、自分の介在価値をじかに感じられる仕事です。そういった意味で効率重視といわれる、いわゆる“タイパ疲れ”を感じている若い人が選択肢の一つとして、あえて手間をかけ自然の中で働き、介在価値を確認できる農業に注目が集まっているのかもしれませんが、また、以前は農業の仕事内容が理解されていないこともあったと思いますが、今はネットで情報を検索できたり、イベントで話を聞くことで、自分の仕事の候補として考えられるようになってきました。若い人たちが自分らしく働く仕事の選択肢として農業が加わり、身近になってきたことも人気の要因だと思います。

## ■ ネクスト・キャリアとしての農業 大切なのは始めやすく続けやすい選択です

働き方改革やコロナ禍で、私たちの仕事に対する考え方や価値観が大きく変わりました。仕事をする中で、自然の中で過ごしたい、自分のペースで働きたい、家族と長い時間一緒に過ごしたいという自己実現を目指し、ネクスト・キャリアとして農業を選択するケースも増えています。また、副業・兼業、転職が当たり前になり、キャリアチェンジしやすい社会の環境もネクスト・キャリアとしての農業選択の後押しになっているのかもしれませんが、今は、初心者でも農業を始めやすい制度や環境があります。ネクスト・キャリアとして農業に携わるのであれば、まずは農家さんでの研修や農業法人で知識や技術を吸収し、その後独立するのもオススメです。いきなり独立して農業を始めるより、始めやすく、続けやすいのではないのでしょうか。

## ■ これから農業を始める20代へのアドバイス 資金と経営計画

とはいえ、農業は自然を相手にすることから、思い通りに栽培できないこともあります。決して簡単な仕事ではありません。農業を始めたからといってすぐに収入があるわけではないので、農業を始める準備資金に加え、1年分の生活費の蓄えはマスト。さらに1年頑張ったのに作物ができなかったということもあるので、それなりの資金は必要です。また、1年目はどういう農業をするのか、2年目は何を指すか、3年目は何を実現するか、そのために何が必要かといった、いわゆる経営計画を持つことも必要です。そういう意味では、起業して事業を運営するのと同じように、経営者としての感覚が求められます。

## ■ 農業をする上で安全管理も重要 農作業事故につながる「無意識」「無理」「無茶」の3Mを視覚効果が高いVR体験で学び、事前のリスク回避を

農業をやっていく上でのリスクの一つが農作業事故です。私も農業をやっていますが、自身の経験から農作業事故の原因は、「無意識」「無理」「無茶」の3Mだと考えています。前日の雨で路面の状態が変わっていることを気にせず、いつもの道だからと危険を意識しない「無意識」、日が暮れているのに今日中に終わらせたいと作業を続ける「無理」、慣れからゴーグルやヘルメットをしないで刈払機（草刈り機）を動かす「無茶」。ついやりがちなのですが、実はとても危険です。農業に携わる人は誰もがこの3Mを意識することが大事だと思います。

生産者はおいしい作物を作ることには関心が高くても、農作業事故対策は二の次になりやすい。しかし起きてからでは後の祭りです。JA共済が活動を広めている「農作業事故体験VR」は、農作業事故を疑似体験できるので、テキストや写真に比べぐっとリアルで実感度が高いと思います。農家さんにも、これから就農を考える方にも、ぜひ一度体験していただきたいですね。



深瀬貴範（ふかせ・たかのり）さん 農業キャリアコンサルタント AKUSYU（アクシュ）代表

1985年株式会社リクルートフロムエー（現・リクルート）に入社。人事マネージャーとして自社の新卒・中途採用を担当、また営業として東日本営業部の部長などを経験。2011年より農林水産省に農業人材の確保について提案。その後、地方創生や地方の農業人材確保に取り組み、2013年から農林水産省補助事業「新・農業人フェア」の責任者を担当。2020年にリクルートを定年退職後、現在は、「新・農業人フェア」のセミナー、地方行政の農業活性化事業に関わる。2024年4月に「難しいことはわかりませんが、50歳でも農業を始められますか？」を淡交社より出版。